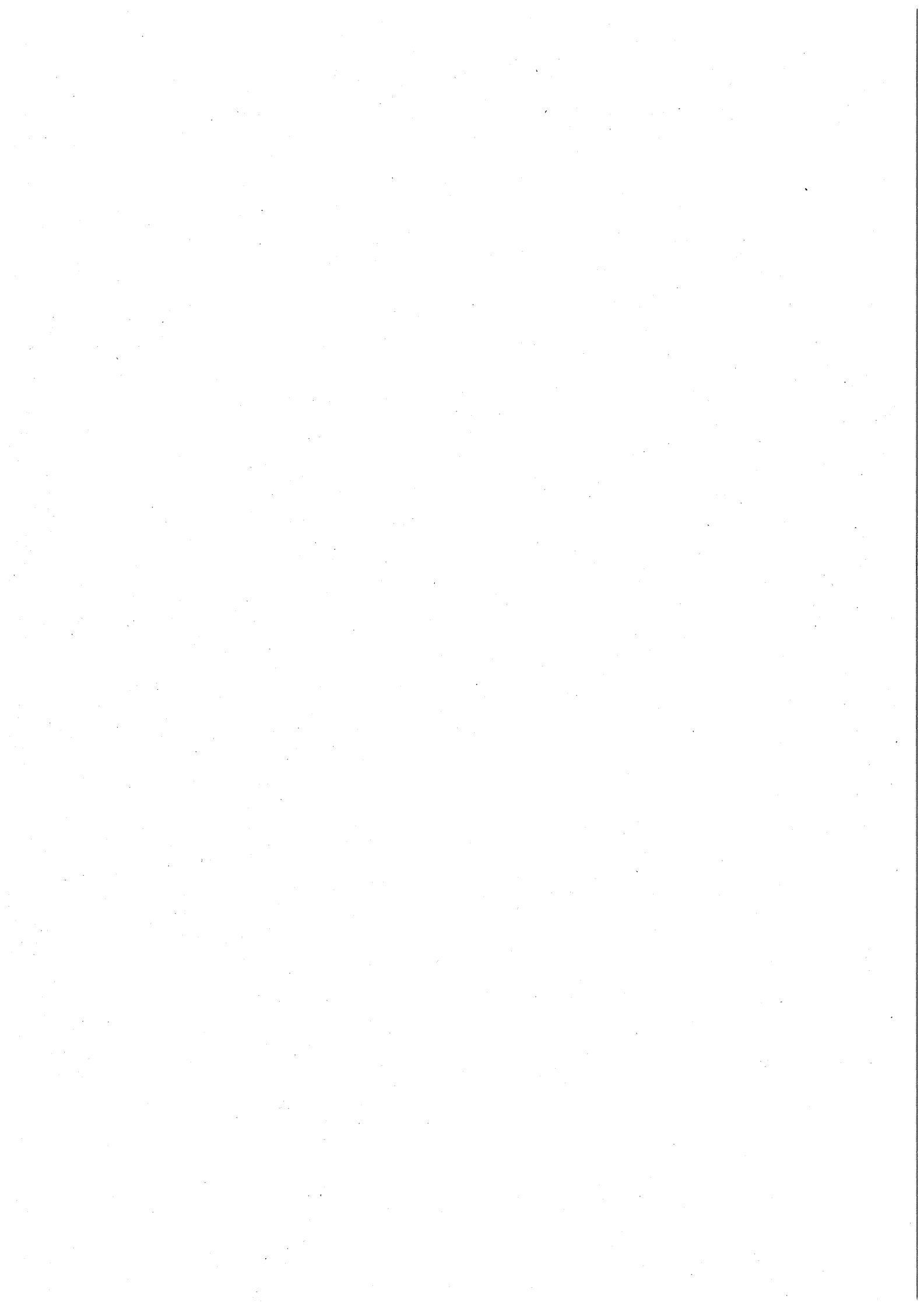


令和5年5月25日

山口県教育委員会会議議案

山口県教育委員会



議案

資料①

番号	件名	主管課	
5	令和5年度山口県教育支援委員会委員の任命について	特別支援教育推進室	p 2

報告事項

番号	件名	主管課	
1	令和6年度(2024年度)山口県公立学校教員採用候補者選考試験の実施について	教職員課	p 5
2	令和5年度全国学力・学習状況調査の実施について	義務教育課	p 1 1
3	令和5年3月新規高等学校等卒業者の就職内定状況等について	高校教育課	p 3 3
4	令和5年度やまぐちの活力を支える高校生就職支援事業について	高校教育課	p 3 4

協議事項

番号	件名	主管課	
1	再編整備により設置する新高校について	高校教育課	p 3 5

議案第 5 号

山口県教育支援委員会委員の任命について

山口県教育支援委員会規則（昭和 53 年山口県教育委員会規則第 4 号）第 3 条第 2 項の規定に基づき、山口県教育支援委員会の委員を別紙のとおり任命する。

令和 5 年（2023 年）5 月 25 日

山口県教育委員会

令和5年度 山口県教育支援委員会委員（案）

	氏名	所属・役職	区分	備考
1	福田 修三	(財)山口県肢体不自由児協会 理事	学識経験者	現任
2	西川 浩子	山口県LD親の会「ほっぺ」 会長 (医師)	学識経験者	現任
3	藤田 久美	山口県立大学社会福祉学部 教授	学識経験者	現任
4	空田 朋子	山口県立大学看護栄養学部 助教	学識経験者	現任
5	松本 正	社会福祉法人ひらきの里 障害者支援施設ひらきの里 施設長	学識経験者	現任
6	松岡 勝彦	山口大学教育学部 教授	学識経験者	現任
7	綿野 友美	よしとみクリニック 院長	医師(小児科)	現任
8	田原 卓浩	たはらクリニック 院長	医師(小児科・内科)	現任
9	渡 広子	クボクリニック 精神科医	医師(精神科)	現任
10	池田 卓生	鼓ヶ浦こども医療福祉センター 耳鼻咽喉科部長	医師(耳鼻咽喉科)	現任
11	吉村 佳子	小郡第一総合病院 眼科医	医師(眼科)	現任
12	山縣 千恵	山口県国公立幼稚園・こども園連盟 副会長 (周南市立桜田幼稚園 園長)	関係教育機関	現任
13	佐野 太	(公財)山口県私立幼稚園協会 副理事長 (学校法人小野田めぐみ学園 小野田めぐみ幼稚園 理事長兼園長)	関係教育機関	現任
14	肥塚 新一	山口県保育協会 (幼保連携型認定こども園 社会福祉法人 聖母園 園長)	関係教育機関	現任
15	岡崎 好治	山口県特別支援教育研究連盟 会長 (周南市立菊川中学校 校長)	関係教育機関	新任
	清永 直志	前山口県特別支援教育研究連盟 副会長 (下関市立江浦小学校 校長)	関係教育機関	前任

※ 任期：令和4年6月1日～令和6年5月31日

山口県教育支援委員会規則

(趣 旨)

第1条 この規則は、附属機関の設置に関する条例(昭和28年山口県条例第51号)第2条の規定に基づき、山口県教育支援委員会(以下「委員会」という。)の組織、運営その他必要な事項について定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 委員会は、山口県教育委員会(以下「教育委員会」という。)の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 県立の特別支援学校に就学しようとする者並びに在学する児童及び生徒のうち、当該学校において障害の種類及び程度を判定することが困難なものについての教育支援に関すること。
- (2) 障害の種類及び程度を判定することが困難であるとして市町教育委員会から依頼のあった者についての教育支援に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、障害のある児童及び生徒の教育支援について教育委員会が特に必要と認める事項に関すること。

(組 織)

第3条 委員会は、委員20人以内で組織する。

2 委員は次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 医師
- (3) 関係行政機関の職員
- (4) 関係教育機関の職員

(任 期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 委員会に会長及び副会長各1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員が互選する。

3 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会 議)

第6条 委員会の会議(以下「会議」という。)は会長が招集する。

2 会議の議長は、会長をもって充てる。

3 会議は、委員の半数以上が出席しなければ、開くことができない。

4 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(部 会)

第7条 委員会に、委員会から付議された事項を調査審議するため、次に掲げる部会を置く。

- (1) 視覚障害部会
- (2) 聴覚障害部会
- (3) 知的障害部会
- (4) 肢体不自由部会
- (5) 病弱・虚弱部会

2 部会は、委員会の委員で組織する。

3 部会に属すべき委員は、委員会の会長が指名する。

4 前2条の規定は、部会について準用する。この場合において、これらの規定中「会長」とあるのは「部会長」と、「副会長」とあるのは「副部会長」と読み替えるものとする。

(調 査 員)

第8条 委員会に、特別の事項を調査するため必要があるときは、調査員を置くことができる。

2 調査員は、関係行政機関又は関係教育機関の職員のうちから、教育委員会が任命する。

3 調査員は、当該特別の事項に関する調査が終了したときは、解任されるものとする。

(庶 務)

第9条 委員会の庶務は、教育庁特別支援教育推進室において処理する。

(そ の 他)

第10条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、会長が委員会に諮って定める。

報告事項 1

令和6年度(2024年度)山口県公立学校教員採用候補者選考試験の実施について

1 選考区分、志願区分(校種等)、教科(科目等)及び採用見込者数

(1) 選考区分及び志願区分(校種等)

ア 一般選考

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校小学部・中学部・高等部、養護教諭の区分で実施する。

イ 障害者を対象とした選考

一般選考において実施する全ての志願区分(校種等)において実施する。

ウ 教職大学院修了見込者特別選考

一般選考において実施する全ての志願区分(校種等)において実施する。

エ 社会人特別選考

一般選考の小中学校及び高等学校の試験を実施する教科(科目等)において実施する。

オ スポーツ・芸術特別選考

高等学校の保健体育及び芸術(音楽、美術)において実施する。

カ 山口県教師力向上プログラム修了者特別選考

小学校において実施する。

キ 博士号取得者特別選考

高等学校の理科(物理、化学、生物)において実施する。

ク 看護科教諭特別選考

高等学校の看護において実施する。

ケ 教職チャレンジサポート特別選考

一般選考の小中学校、中学校及び高等学校の試験を実施する教科(科目等)において実施する。

※ 一つの選考区分、志願区分(校種等)に限り志願できる。

中学校及び高等学校並びに特別支援学校の中学部及び高等部にあつては、一つの教科(科目等)に限り志願できる。

ただし、以下の1～7に示す組合せについては併願が可能(いずれか一つの組合せに限る)。

なお、4～7については、第一志願と第二志願を逆にした組合せによる併願も可能。

	選考区分	第一志願	第二志願
1	一般選考	中学校	小学校
2	一般選考	特別支援学校小学部	小学校
3	一般選考	特別支援学校中学部	小学校
4	一般選考	中学校音楽	特別支援学校中学部音楽
5	一般選考	中学校美術	特別支援学校中学部美術
6	一般選考	高等学校芸術(音楽)	特別支援学校高等部芸術(音楽)
7	一般選考	高等学校芸術(美術)	特別支援学校高等部芸術(美術)

(2) 教科(科目等)及び採用見込者数

全体433人程度 [昨年度370人程度]

採用見込者数の算定に当たっては、退職者数、児童生徒数の推移等を考慮した。

ア 一般選考

小学校	193人程度	[昨年度173人程度]
中学校	130人程度	[昨年度100人程度]
	○ 国語 20人程度	
	○ 社会 24人程度	
	○ 数学 17人程度	
	○ 理科 20人程度	
	○ 音楽 4人程度	
	○ 美術 5人程度	
	○ 保健体育 15人程度	
	○ 技術 4人程度	
	○ 家庭 4人程度	
	○ 外国語(英語) 17人程度	
高等学校	69人程度	[昨年度 58人程度]
	○ 国語 7人程度	
	○ 地理歴史	
	世界史 2人程度	
	日本史 4人程度	
	地理 2人程度	
	○ 公民	
	政治・経済 2人程度	
	○ 数学 9人程度	
	○ 理科	
	物理 2人程度	
	化学 2人程度	
	生物 1人程度	
	○ 保健体育 5人程度	
	○ 芸術	
	音楽 1人程度	
	美術 1人程度	
	○ 外国語(英語) 9人程度	
	○ 家庭 2人程度	
	○ 情報 2人程度	
	○ 農業	
	農業畜産系 2人程度	
	農芸化学・食品系 1人程度	
	土木造園林業系 1人程度	
	○ 工業	
	機械系 3人程度	
	電気系 3人程度	
	土木建築系 1人程度	
	化学工業系 3人程度	
	○ 商業 3人程度	
	○ 福祉 1人程度	
特別支援学校	小学部 9人程度	[昨年度 9人程度]
	中学部 各教科(科目等)1人程度を原則とし、 合計9人程度	[昨年度 9人程度]
	○ 国、社、数、理、音、美、保、技、家、外(関)	
	高等部 各教科(科目等)1人程度を原則とし、 合計6人程度	[昨年度 6人程度]
	○ 国、地歴(世、日、地)、公(債・組)、数、理(物、化、生)、保、芸(音、美)、外(関)、家、情、福	
養護教諭	5人程度	[昨年度 5人程度]

※採用者数は、退職者数の状況等により変更することがある。

- イ 障害者を対象とした選考
全ての志願区分（校種等）全体で11人程度 [昨年度 9人程度]
- ウ 教職大学院修了見込者特別選考
前頁「ア 一般選考」の採用見込者数を含む。
- エ 社会人特別選考
小学校、中学校、高等学校とも前頁「ア 一般選考」の採用見込者数を含む。
- オ スポーツ・芸術特別選考
中学校、高等学校とも前頁「ア 一般選考」の採用見込者数を含む。
- カ 山口県教師力向上プログラム修了者特別選考
前頁「ア 一般選考」の採用見込者数を含む。
- キ 博士号取得者特別選考
前頁「ア 一般選考」の採用見込者数を含む。
- ク 看護科教諭特別選考
高等学校の看護で1人程度 [昨年度 1人程度]
- ケ 教職チャレンジサポート特別選考
小学校、中学校、高等学校合わせて5人程度（令和7・8年度採用）

2 出願受付期間

- 5月12日（金）から5月31日（水）午後5時まで
※ インターネット（電子申請）による出願を原則とする。

3 選考試験期日

- (1) 第一次試験
7月8日（土）及び9日（日）
- (2) 第二次試験
8月19日（土）及び20日（日）
なお、小学校については、上記に加えて20日（日）から22日（火）のうち指定した1日で個人面接を実施（8月26日（土）、8月27日（日）を、悪天候等で小学校個人面接が実施できなかった場合の予備日とする。）

4 選考試験会場

- (1) 第一次試験
 - ア 山口会場・・・・・・・・・・山口高校、山口中央高校、西京高校
 - イ 関西会場（兵庫県尼崎市）・・・尼崎市総合文化センター
 - ウ 東京会場（東京都江東区）・・・東京海洋大学越中島キャンパス
- (2) 第二次試験
山口高校、山口中央高校、西京高校、山口農業高校

5 選考試験内容

- (1) 第一次試験
 - ア 一般選考、障害者を対象とした選考、特別選考（教職チャレンジサポート特別選考以外）
 - ・教職専門（一般選考及び障害者を対象とした選考の志願者）
 - ・教科専門
 - ・特別支援教育専門（特別支援学校志願者及び特別支援学校を第二志願とする者）
 - ・実技（小学校及び特別支援学校小学部の志願者を除く）
 - ・集団面接（討議）（教職大学院修了見込者特別選考及び山口県教師力向上プログラム修了者特別選考の志願者以外の者）
 - イ 教職チャレンジサポート特別選考
 - ・SPI3基礎能力検査
 - ・実技（中学校及び高等学校の志願者）
 - ・集団面接（討議）

(2) 第二次試験

適性検査、小論文、集団面接（模擬授業及び討議）、個人面接、実技（小学校、特別支援学校小学部の志願者及び小学校を第二志願とする者。ただし、教職チャレンジサポート特別選考の者を除く。）

※ 障害等のある志願者から受験上の配慮や採用後の配慮の希望があった場合は、障害の状態等に応じて必要な配慮について、志願者と話合いの上、決定する。ただし、内容によっては配慮できない場合もある。

受験上の配慮例：実技試験の免除、問題・解答用紙の文字の拡大、試験時間の延長 等

採用後の配慮例：可能な範囲での設備改修

6 選考試験結果の発表

(1) 第一次試験結果の発表予定

8月2日(水) 午前9時

(2) 第二次試験結果の発表予定（採用候補者名簿登載予定者の発表）

10月3日(火) 午前9時

7 令和6年度山口県公立学校教員採用候補者選考試験の主な変更点

- 教職チャレンジサポート特別選考の新設
- 国公立学校本採用教員経験者を対象とした第一次試験の教職専門免除
- 国公立学校本採用教員経験者のうち、志願区分と同一かつ3年以上の勤務経験を有する者を対象とした第一次試験免除
- 臨時的任用教員等を対象とした教職専門免除における在職期間の見直し及び対象者の拡大
- スポーツ・芸術特別選考及び看護科教諭特別選考における試験項目の見直し
- 選考に当たっての考慮事項の見直し

8 実施要項の請求等について

(1) ダウンロードによる取得方法

下記URL又は右記QRから山口県教育庁教職員課のウェブページ
(教員採用試験専用ページ) にアクセスしてダウンロード

URL : <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/178/26366.html>



(2) 郵便による請求方法

山口県教育庁教職員課に請求

封筒の表に「実施要項請求」と朱書きし、住所、氏名（〇〇様とする。）及び郵便番号を明記し140円分の切手を貼った返信用封筒（角形2号：縦33cm、横24cmのもの）を必ず同封し、山口県教育庁教職員課（郵便番号 753-8501 山口市滝町1番1号）宛てに送付

(3) 配布場所

山口県庁（受付、中央県民相談室及び山口県教育庁教職員課）、山口県内各総合庁舎（地方県民相談室等）、山口県東京事務所、山口県大阪事務所、山口県内各市町教育委員会

9 その他

○ 緊急連絡について

試験実施に関する変更が生じる場合等は、山口県教育庁教職員課のウェブページ（教員採用試験専用ページ）に内容を掲載するとともに、「緊急連絡メール」により周知するので、出願の際に、受信のための登録をする。

10 説明会等について

(1) 説明動画のウェブページへの掲載

5月11日（木）に、「山口県の教育」「採用候補者選考試験について」の説明動画を山口県教育庁教職員課のウェブページ（教員採用試験専用ページ）に掲載

(2) 県内大学会場での説明会（各大会場で実施）

現職の教員が、山口県で教員として働く魅力や採用試験に向けた勉強方法を紹介

① 5月15日（月） 16：40～ 山口学芸大学、梅光学院大学
事例発表者校種：小学校・中学校・特別支援学校
参加人数：77人

② 5月16日（火） 16：30～ 山口大学、山口県立大学、下関市立大学
事例発表者校種：小学校・高等学校・養護教諭
参加人数：88人

(3) 志願者応援説明会（オンラインで実施）

現職の教員が、山口県で教員として働く魅力や採用試験に向けた勉強方法を紹介

① 5月19日（金） 17：00～ 校種：小学校・中学校・高等学校
参加人数：61人

② 5月20日（土） 9：30～ 校種：小学校・中学校・高等学校
参加人数：50人

③ 5月20日（土） 11：00～ 校種：小学校・特別支援学校・養護教諭
参加人数：33人

※ (2)の発表を録画したものを視聴

※ 各回1時間程度で開催（①と②は同内容）

※ 各回の最後に、県教委による質疑応答の時間を設定

(4) 個別相談会

県外在住の志願者を対象としたオンライン個別相談会

① 5月13日（土） 9：00～12：00（一組15分程度 [事前予約制]）
参加人数：9人

② 5月20日（土） 13：00～16：00（一組15分程度 [事前予約制]）
参加人数：8人

(5) “教チャレ” 個別相談会

教職チャレンジサポート特別選考の志願者を対象としたオンライン個別相談会

○ 5月13日（土） 13：00～16：00（一組15分程度 [事前予約制]）
参加人数：10名

○ 説明会等参加延べ人数

(2) (3) (4) (5)

165人+144人+17人+10人 = 336人

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

中学校第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査実施日

令和5年4月18日(火)

4 調査内容

(1) 教科に関する調査(小学校…国語、算数 中学校…国語、数学、英語)

- 中学校英語の調査が、平成31年度以来4年ぶりに実施された。「聞くこと」「書くこと」「読むこと」については、4月18日(火)に紙で、「話すこと」については、4月18日(火)～5月26日(金)の中で文部科学省が指定した日にオンラインで実施することとなっている。
- 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とする。
- 出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- 調査問題では、上の①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- 児童生徒に対する調査
 - ・ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- 学校に対する調査
 - ・ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 調査実施学校数および参加児童生徒数

- 調査実施学校数 計 412校
 - ・ 小学校266校
 - ・ 中学校138校
 - ・ 中等教育学校1校
 - ・ 特別支援学校7校
- 参加児童生徒数 計 約21,200人
 - ・ 小学校 約10,600人
 - ・ 中学校 約10,600人

※ 実施学校数は、県立および市町立学校のみ。

※ 特別支援学校の内訳は、小学部3、中学部4。

6 調査結果の公表について

7月末頃、各教育委員会及び学校に対して、文部科学省から調査結果が提供される予定。

II 調査問題の概要

1 教科に関する調査

小学校国語 14問

- 経験したことを基に文章を書く場面、目的をもって複数の文章を読む場面、身近な人にインタビューをする場面など、全ての問題において、日常生活で行う言語活動が設定されている。
- 設問については、複数の情報の内容や関係性を捉える問題、複数の文章を関連付けて読み、自分の考えを述べる問題、目的や相手に応じたインタビューの仕方を考える問題など、実際の学習場面や学校生活での活用を想定した問題が出題された。

【特徴的な問題例】

複数の文章を関連付けて読み、自分の考えを述べる問題

2

相田さんの学級では、健康に過ごすために、複数の文章を選んで読み、自分ができそうなことを考えてまとめることにしました。次は、「相田さんの考え」と、相田さんが知りたいことを調べるために選んだ【資料1】、【資料2】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【相田さんの考え】

ぼくは、運動の面から考えてみたいな。運動をすると健康にどんないいことがあるのかな。



相田さん

【資料1】運動について書かれた本の一部

運動は、体力の向上につながります。そのため、子供からお年寄りまで適度に運動をすることが大切だと言われています。
私たちが日ごろ行っている運動には、いくつかの種類があります。例えば、体にたくさん酸素を取り入れながら続けることで持久力を高める運動や、瞬間的に大きな力を出すことで筋肉の力を高める運動などです。
生活の中に自分が好きな運動を取り入れれば、続けて取り組むことができます。その際は、目的に応じた運動を選ぶとともに、健康状態や体力に合わせて自分のペースで行うことが大切です。

運動で健康な体をつくろう！

運動には、筋力や持久力などを高めるほかに、病気への抵抗^{たいごうりき}力を高める効果もあります。また、運動によって気持ちがりフレッシュするなどの効果もあります。

どんな運動をするといいの？

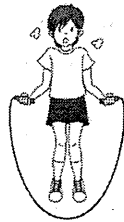
運動をする際、自分に合った運動を選んで行うことが大切です。主な運動の種類には、下のように、軽いジョギングなどの持久力を高める運動や、腹筋運動などの筋力を高める運動があります。そのほかにも、体のやわらかさを高める運動や、たくみな動きを高める運動などがあります。

このような運動は日常生活の中にもあります。例えば、休み時間の外遊び、犬の散歩、階段の上り下り、荷物運びなどです。日常生活の中で体を動かす機会をつくると効果的です。

主に持久力を高める運動の例



軽いジョギング



縄とび(続けてとぶ)

主に筋力を高める運動の例



腹筋運動



腕立てふせ

栄養素の働き

規則正しく食事をとることにより、^{のう}脳が活発に働いたり、**元気に運動**したりすることができます。ただし、同じものや好きなものばかり食べていると、栄養がかたよってしまい、つかれやすくなったりいらいらしたりします。

食品は、栄養素の主な働きによって、下のよう、主に三つのグループに分けることができます。

米やパンなどは、主に**エネルギーのもと**になります。

肉や^{たまご}卵などは、主に体をつくるもとになります。

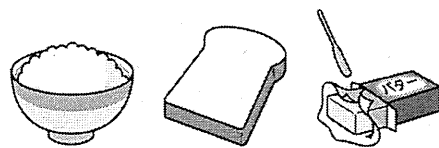
筋肉がついたり、けがが治りやすくなったりします。

野菜や^{くだもの}果物などは、主に体の調子を整えるもとになり、

病気にかかりにくくなります。

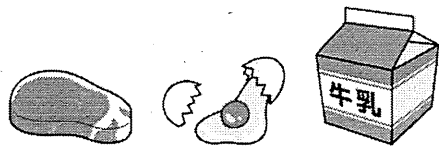
〈栄養素の主な働きと食品の例〉

主にエネルギーのもとになる



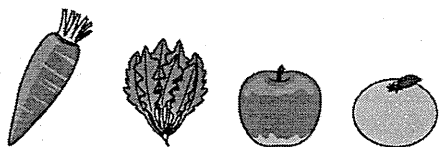
米、パン、バターなど

主に体をつくるもとになる



肉、卵、^{ごうにゅう}牛乳など

主に体の調子を整えるもとになる



野菜、果物など

四

相田さんは、「資料1」、「資料2」、「資料3」を読み、運動と食事について分かったことをもとに、これから自分ができそうなことを考えてまとめようとしています。あなたなら、どのようにまとめますか。その内容を次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 資料を読んで、運動と食事の両方について分かったことを書くこと。
- 分かったことをもとに、これから自分ができそうなことを書くこと。
- 八十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

2四 (正答例)

健康に過ごすためには、自分に合った運動をしたり、バランスのよい食事をとったりすることが大切だと分かりました。わたしは、これから、縄とびを続けて持久力を高めたり、苦しい野菜も食べたりしようと思います。(99字)

小学校算数 16問

- 筋道を立てて説明したり論理的に考えたりして、自ら納得したり他者を説得したりすることが大切であることから「事実」「方法」「理由」を説明する場面が設定されている。
- 設問については、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断する問題、自作の運動カードを作って記録を集計し、その結果を分析する際に、複数の棒グラフを根拠にまとめを書く問題、テープを折ったり切ったりしてできる図形の角や面積を求める問題が出題された。

【特徴的な問題例】

求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断する問題

3

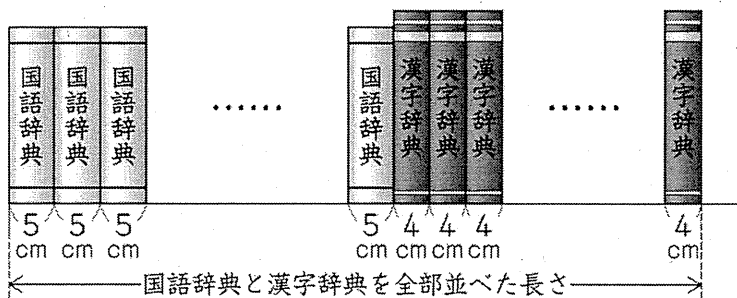
辞典やファイルを、教室の後ろに並べようとしています。

- (1) わかなさんの学級では、国語辞典と漢字辞典を1人1冊ずつ使えるように、ロッカーの上に並べることにしました。そこで、並べる前に、国語辞典と漢字辞典を全部並べた長さが、どのくらいになるのかを考えています。国語辞典1冊の厚さは5 cm、漢字辞典1冊の厚さは4 cm、学級の人数は28人です。



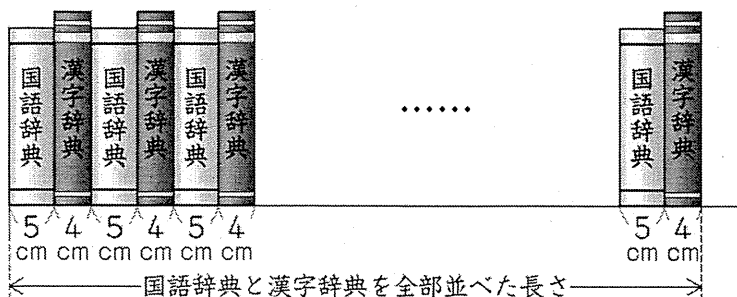
わかな

国語辞典と漢字辞典に分けて並べたとして考えます。



あきら

1人分ずつ並べたとして考えることもできます。





わかなさんの並べ方でも、あきらさんの並べ方でも、どちらも同じ長さになるはずですね。

わかなさんとあきらさんは、国語辞典と漢字辞典を全部並べた長さが、何 cm になるのかを計算で求めようと考え、それぞれ自分の並べ方をもとにして、次のような式を書きました。

【わかなさんの式】

$$\underbrace{5 \times 28 + 4 \times 28}$$

【あきらさんの式】

$$\underbrace{(5 + 4)} \times 28$$

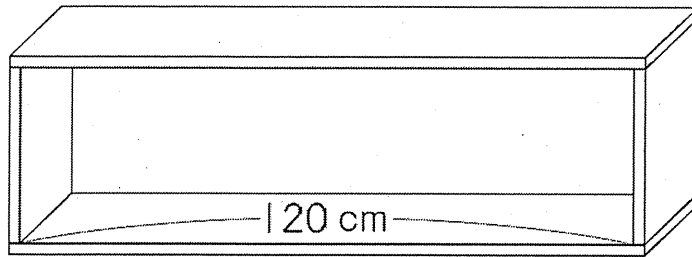
【わかなさんの式】の「 $\underbrace{5 \times 28}$ 」と、【あきらさんの式】の「 $\underbrace{5 + 4}$ 」は、何を表していますか。

下の **ア** から **エ** までの中から1つずつ選んで、その記号を書きましょう。

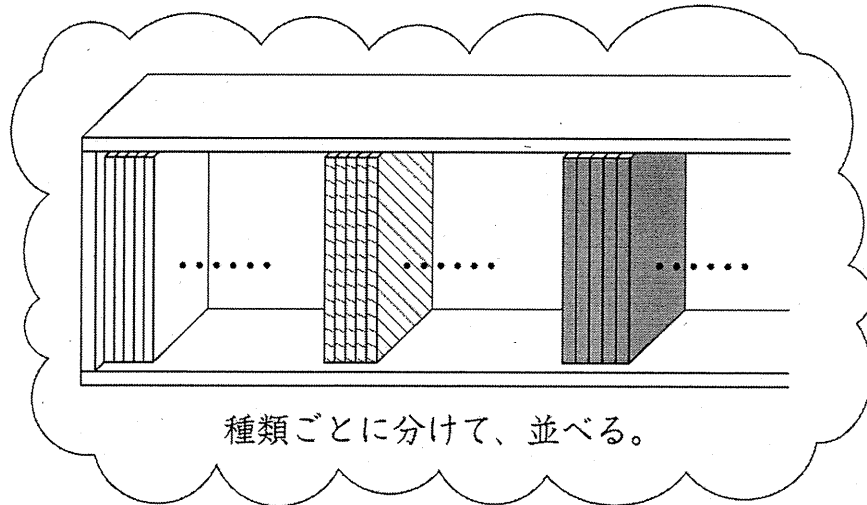
- ア** 国語辞典 28 冊を並べた長さ
- イ** 漢字辞典 28 冊を並べた長さ
- ウ** 国語辞典 1 冊の厚さと漢字辞典 1 冊の厚さを合わせた長さ
- エ** 国語辞典 28 冊と漢字辞典 28 冊を並べた長さ

(2) けんたさんの学級では、1人が3種類のファイルを1冊^{さつ}ずつ使うことにしました。それぞれのファイルの厚さは、1.4 cm、1.6 cm、2 cmです。けんたさんの学級の人数は23人です。

下のような、はば120 cmのたなに、ファイルを全部^{なら}並べて入れることができるかどうかを考えています。



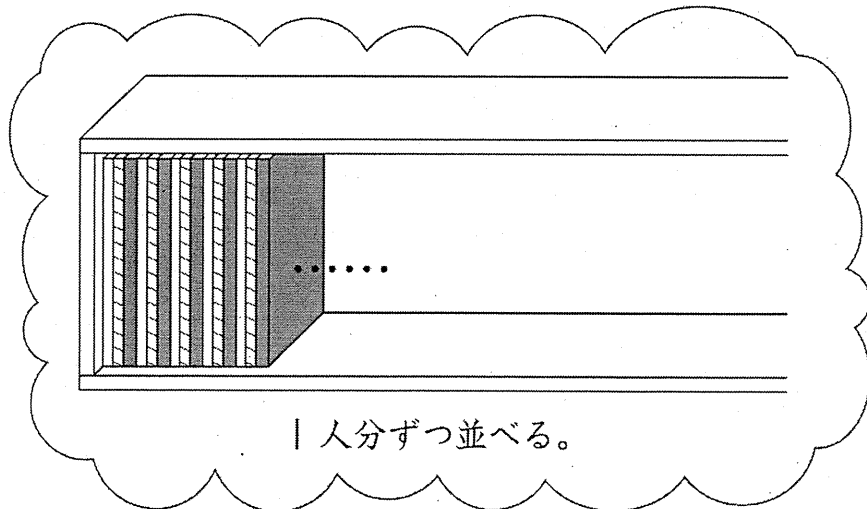
けんた



種類ごとに分けて、並べる。



あやね



1人分ずつ並べる。

3種類のファイル23人分を全部並べた長さは、何cmですか。

全部並べた長さの求め方を、式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

さらに、たなにファイルを全部並べて入れることができるかどうかを、下の **1** と **2** から選んで、その番号を書きましょう。

1 入れることができる。

2 入れることができない。

(3) けんたさんは、下の①と②の計算について考えています。

それぞれの計算の答えを書きましょう。

① $(151 + 49) \times 3$

② $151 \times 3 + 49 \times 3$

3(2) (正答例)

【求め方】 (例) 1人分のファイルの長さを求め、その23人分の長さを求めると、 $(1.4 + 1.6 + 2) \times 23 = 115$ で、115cmです。

【答え】 115 (cm)

【番号】 1

- インターネットで集めた情報を基にインタビューをする場面、二つの文章を関連付けながら読み、自分の考えをもつ場面、興味をもったことについてレポートにまとめる場面、古典作品の原文と現代語訳等を読み比べる場面など、全ての問題において、日常生活で行う言語活動が設定されている。
- 設問については、インタビューしたことを基に自分の考えを述べる問題、二つの文章の内容を踏まえながら自分の考えを述べる問題、レポートの目的に沿って、説明の仕方を考える問題など、実際の学習場面や学校生活での活用を想定した問題が出題された。

【特徴的な問題例】

二つの文章の内容を踏まえながら自分の考えを述べる問題

2

中山さんは、本の読み方について考えるために、「A」と「B」の文章を読んでいます。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【A】

同じ本を二度と読まない人はいるでしょうが、歳をとると前に買ったことを忘れて同じ本を買ってしまうこともありますし、読み進むうちに既視感があつて、おかしいと思っていたら、前に一度読んだことのある本であることに気づくことがあります。

そんな時でも落胆する必要はありません。本を再読する時には、前に読んでいた時と違って同じ本でも違った読み方ができます。忘れたわけでなく、あえて同じ本を何度も読む人もいます。

同じ本でもいつも読むたびに新しい発見があります。ギリシアの哲学者であるヘラクレイトスが「同じ川には二度入れない」といっています。

前に読んだ本でも初めて読むような気がするものは、何が書いてあつたかを忘れてしまったからではありません。川に足をつける時、それが二度目であっても、川の流れは前と同じであるはずはありませんし、自分も前に足をつけた時とは違っているはずなので、「同じ川には二度入れない」のです。

本の場合には、たしかに書いてあることは同じなのですが、それでも自分は前に読んだ時とは違っているのです。同じ本でも同じように読むことはできません。

その上、前と今とは同じように読んでいるわけでもないのです。前に読んだ時には読み落としていたり、あるいは、あまり強い印象を残さなかつた箇所があることに気がつきます。印刷されている文字は同じでも、前と同じ本を読んでいるのではないといつていくくらいです。

以前より必ず成長しなければならぬわけではありませんが、今の自分が前に読んだ時とは違うと感じられるというのも読書の楽しみの一つだと思います。

（岸見一郎「本をどう読むか」による。）

[B]

ある作家の全集を読むのは非常にいいことだ。研究でもしようというのでなければ、そんなことは全く無駄事だと思われがちだが、決してそうではない。読書の楽しみの源泉にはいつも「文は人なり」という言葉があるのだが、この言葉の深い意味を了解するのは、全集を読むのが、一番手っ取り早いしかも確実な方法なのである。

一流の作家なら誰でもいい、好きな作家でよい。あんまり多作の人は厄介だから、手頃なのを一人選べばよい。その人の全集を、日記や書簡の類に至るまで、隅から隅まで読んでみるのだ。

そうすると、一流と言われる人物は、どんなに色々なことを試み、いろいろなことを考えていたかが解る。彼の代表作などと呼ばれているものが、彼の考えていたどんなに沢山の思想を犠牲にした結果、生れたものであるかが納得出来る。単純に考えていたその作家の姿などはこの人にこんな言葉があったのか、こんな思想があったのかという驚きで、滅茶々々になつてしまふであろう。その作家の性格とか、個性とかいうものは、もはや表面のところ判然と見えるというようなものではなく、いよいよ奥の深い小暗いところに、手探りで捜さねばならぬもののように思われて来るだろう。

僕は、理窟を述べるのではなく、経験を話すのだが、そうして手探りをしているうちに、作者にめぐり会うのであつて、誰かの紹介などによつて相手を知るのではない。こうして、小暗いところで、顔は定かにわからぬが、手はしっかりと握つたという具合な解り方をしてしまうと、その作家の傑作とか失敗作とかいうような区別も、別段大した意味を持たなくなる、と言うより、ほんの片言隻句にも、その作家の人間全部が感じられるというようになる。

これが、「文は人なり」という言葉の真意だ。それは、文は眼の前にあり、人は奥の方にいる、という意味だ。

(小林秀雄「読書について」による。)

(注1) ヘラクレイトス『生涯年不詳。紀元前五百年ごろに活躍したギリシヤの哲学者。

(注2) 「文は人なり」『十八世紀にフランスの博物学者ビュフォンが演説の中で述べて広まった言葉。

(注3) 書簡『手紙。

(注4) 片言隻句『わずかな言葉。

四 中山さんは、【A】や【B】の文章で述べられていることを参考にして、自分の本の読み方について考えました。あなたなら、

これからどのように本を読んできたいと考えますか。次のア、イについて、それぞれの指示にしたがって書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア 【A】か【B】、またはその両方の文章から、自分が着目したところを抜き出しなさい。

イ アを踏まえ、読書に関する経験や知識に触れながら、これからどのように本を読んできたいかを具体的に書きなさい。

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

↑選んだ文章の番号を塗りつぶしなさい。

選んだ文章

- ①【A】 ②【B】 ③両方

ア

イ

イ	ア
---	---

24 (正答例)

ア【A】同じ本でもいつも読むたびに新しい発見があります。

イ 私は、今まで再読をした経験がなかったけれど、「新しい発見」を体験してみたいので、以前に読んだ本をもう一度読んでみたいと思います。

中学校数学 15問

- 見いだした事柄や事実、事柄を調べる方法や手順、事柄が成り立つ理由等を説明する場面設定がされている。
- 設問としては、「データの活用」領域の表や箱ひげ図から複数の集団のデータの分布傾向を比較して捉え、判断する理由を数学的な表現を用いて説明する問題、日常的な事象について、一次関数のグラフや数式を用いて解決方法を説明する問題、図形の性質について、既に示された証明を振り返って統合的・発展的に考察する問題が出題された。

【特徴的な問題例】

複数の集団のデータの分布傾向を比較して捉え、判断する理由を数学的な表現を用いて説明する問題

7 イチョウの木の大部分の葉が黄色に変わった最初の日を黄葉日^{おうようび}といいます。一花さんと啓太さんは、黄葉日が以前と比べるとだんだん遅くなってきている傾向にあることをニュースで知り、二人が住む地域も同じ傾向にあるのかが気になりました。そこで、二人が住む地域の黄葉日を調べたところ、1961年から2020年までの60年分の記録がありました。

二人は、黄葉日の傾向を調べるために、各年の黄葉日を9月30日からの経過日数で表すことにしました。このとき、経過日数は10月1日が1日となり、10月31日は31日、11月1日は32日となります。

そして、二人は次のような表にまとめました。

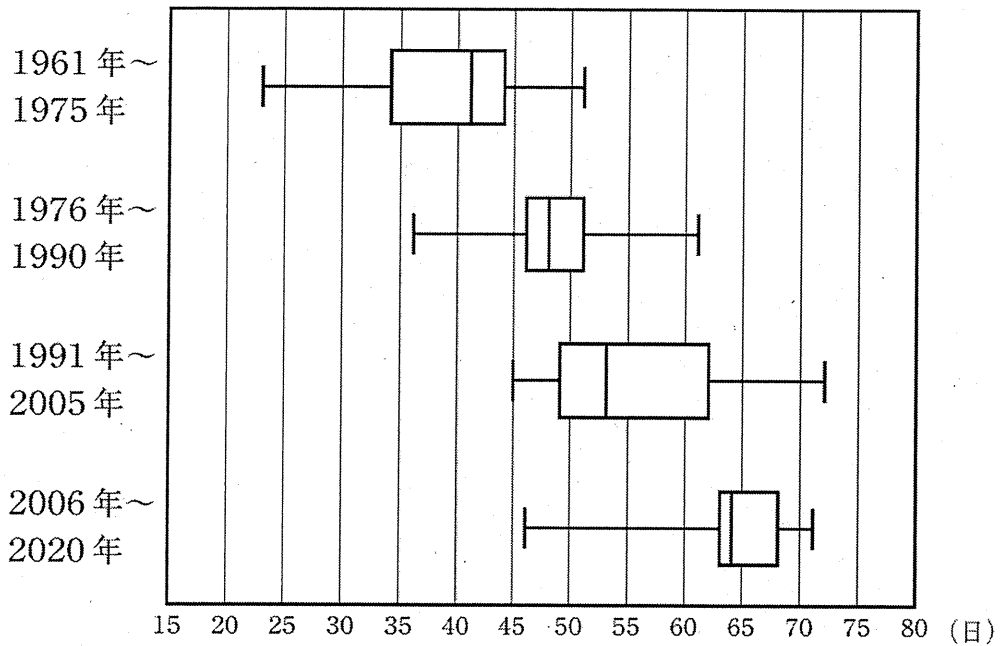
各年の黄葉日

年	黄葉日	経過日数(日)
1961	10月23日	23
1962	11月10日	41
1963	11月10日	41
1964	11月13日	44
1965	11月12日	43
⋮	⋮	⋮
2019	12月10日	71
2020	12月4日	65

二人は、上の表を見て、経過日数が年によって大きくなったり小さくなったりしていることに気づきました。そこで、60年分の経過日数を何年かごとのまとまりで分けて箱ひげ図で表し、それぞれの分布の傾向を比較することにしました。

次のページの黄葉日までの経過日数の分布は、15年ごとのまとまりとして1961年～1975年、1976年～1990年、1991年～2005年、2006年～2020年の4つに分けてまとめたものです。

黄葉日までの経過日数の分布



	経過日数(日)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
1961年～1975年	23	34	41	44	51
1976年～1990年	36	46	48	51	61
1991年～2005年	45	49	53	62	72
2006年～2020年	46	63	64	68	71

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 1961年～1975年の四分位範囲を求めなさい。

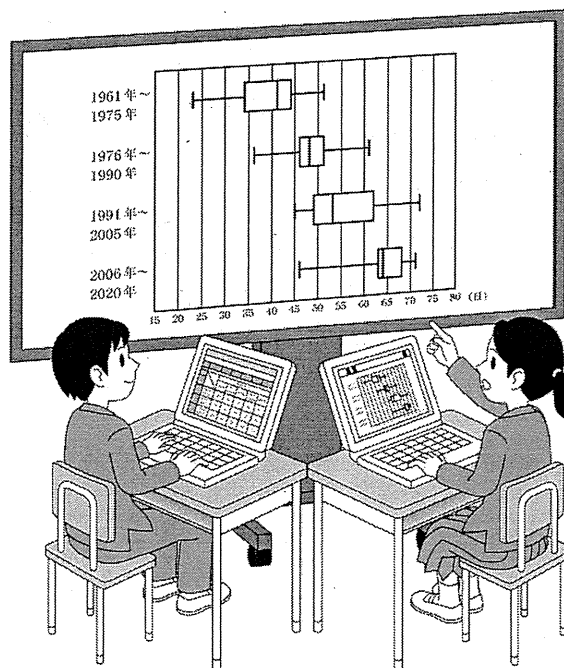
(2) 二人は、前ページの箱ひげ図を見て、話し合っています。

一花さん「4つの箱ひげ図を見ると、黄葉日はだんだん遅くなっている傾向がありそうだね。」

啓太さん「でも、1991年～2005年と2006年～2020年の箱ひげ図は、右端と左端が同じくらいの位置にあるよ。遅くなっているといえるのかな。」

一花さん「確かに箱ひげ図の右端と左端についてはそうだけど、箱に着目すれば、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあるといえるのではないかな。」

前ページの箱ひげ図を見ると、一花さんのように「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。



7(2) (正答例)

1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にある。したがって、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。

中学校英語

17問

- メールやウェブサイト、オンラインなどICTを活用した場面や、授業における学習活動場面など、日常生活と関連付けられた場面が設定されている。
- 設問については、まとまりのある英文を読んで概要を捉える問題や、学校紹介についてまとまりのある文章を25語以上で書く問題などが出題された。また、英文を読んで概要を捉え、求められることに対して適切に対応する力をみる「読むこと」と「書くこと」を組み合わせた技能統合型の問題も出題されている。

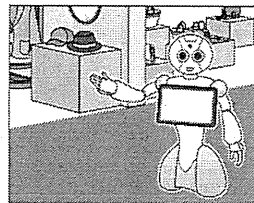
【特徴的な問題例】

英文を読んで概要を捉え、求められることに対して適切に対応する力をみる「読むこと」と「書くこと」を組み合わせた技能統合型の問題

- 8** 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful.

When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I



could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



(注) plate: 皿 even if ~: たとえ~だとしても
apartment: アパート agree with: ~に賛成する

(1) ブラウン先生が最も伝えたいことを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 We see many kinds of robots around us.
- 2 I saw a robot and it was working as a guide.
- 3 People will have fun if they live with robot pets.
- 4 Robots can change many people's lives for the better.

(2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

8(2) (正答例)

- I agree with you. If robots do our housework, we will have more time.
- I don't agree with you because people will lose their job.

2 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の特徴

児童生徒質問紙 小学校：59問（-10問）中学校：72問（+3問）※R4との比較

- 多少の表現の差異はあるものの、小学校と中学校で同質の質問がされている。
- 外国の人との関わり、学校の部活動、英語の授業に関する質問等が追加されている。

【新たに追加された質問例】

○ 自分自身のことについて

- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。(小中学校)
- ・友達関係に満足している。(小中学校)
- ・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。(小中学校)

○ 読書について

- ・昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館（それぞれ電子図書館を含む）にどれくらい行きますか。(小中学校)

○ 部活動について

- ・学校の部活動に参加していますか。(中学校)
- ・普段（月曜日から金曜日）、平均して何日学校の部活動に参加していますか。
(中学校)
- ・学校の部活動で、普段（月曜日から金曜日）活動を行った日は、平均してどれくらいの時間、活動をしますか。(中学校)
- ・学校の部活動で、土曜日や日曜日など学校が休みの日に活動を行った日は、平均してどれくらいの時間、活動をしますか。(中学校)

○ 外国の人との関わりについて

- ・外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う。
(小中学校)
- ・日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う。
(小中学校)

○ 学習について

- ・あなたにどれくらい当てはまりますか。
 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている。(小中学校)

○ 国語について

- ・あなたは、国語についてどのように思っていますか。
 国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいる。(小学校)
- 国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている。(小学校)

- 国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(小学校)
- 国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目している。(小学校)
- 行書の基礎的な書き方を理解して書いている。(中学校)
- 国語の授業で、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫している。(中学校)
- 国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いている。(中学校)
- 国語の授業で、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえている。(中学校)

○ 英語について

- ・ 英語の勉強は好きだ。(小中学校)
- ・ 英語の勉強は大切だ。(小中学校)
- ・ 英語の授業の内容はよく分かる。(中学校)
- ・ 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。(中学校)
- ・ 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う。
(小中学校)
- ・ これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか(地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、PC・タブレットなどのICT機器を利用して他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど)。(小中学校)
- ・ 家庭学習の課題(宿題)として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか。(小中学校)
- ・ 1、2年のときに受けた授業について、当てはまるものを選んでください。
(中学校)
- 英語を聞いて(一文ではなく全体の)概要や要点を捉える活動が行われていたと思う。
- 英語を読んで、(一文ではなく全体の)概要や要点を捉える活動が行われていたと思う。
- 原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思う。
- スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思う。
- 自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思う。
- 聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思う。
- 聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思う。

学校質問紙 小学校：81問（-1問）中学校：89問（+9問）※R4との比較

- 多少の表現の差異はあるものの、小学校と中学校で同質の質問がされている。
- 日本語指導、英語の指導方法、配慮が必要な児童生徒に対するICT活用に関する質問等が追加されている。

【新たに追加された質問例】

- **学校規模等に関する項目**
 - ・日本語指導が必要な児童（生徒）数は何人ですか。（小中学校）

- **生徒指導等に関する項目**
 - ・調査対象学年の児童（生徒）は、次の項目にどの程度当てはまりますか。
 熱意をもって勉強している。（小中学校）
 礼儀正しい。（小中学校）

- **学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況に関する項目**
 - ・ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか。（小中学校）
 - ・ICTを活用した校務の効率化の一環として、クラウドを活用した校務の効率化（クラウドサービスを活用した保護者への連絡やアンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等）に取り組んでいますか。（小中学校）
 - ・教職員の取組について、次の事項にどの程度当てはまりますか。
 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成している。（小中学校）
 言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいる。（小中学校）

- **主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況に関する質問**
 - ・前年度までに、次のことをどの程度行いましたか。（小中学校）
 学習指導において、児童（生徒）一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫している。
 学習指導において、児童（生徒）が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫している。
 - ・調査対象の児童（生徒）に、前年度に、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか。

- **学習評価に関する質問**
 - ・学習評価の方針を児童（生徒）に示した上で、児童（生徒）の学習評価の結果を、その後の教員の授業改善や児童（生徒）の学習改善に生かすことを心がけましたか。（中学校）

○ 国語科の指導方法に関する質問

- ・前年度までに、次のような指導をどの程度行いましたか。
 - 自分と相手との間に好ましい関係を築き、継続させるといった言葉の働きに気付くことができるような指導。(小学校)
 - 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導。(小学校)
 - 互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導。(小学校)
 - 登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導。(小学校)
 - 行書の基礎的な書き方を理解して書くことができるような指導。(中学校)
 - 自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導。(中学校)
 - 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導。(中学校)
 - 文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導。(中学校)

○ 英語科の指導方法に関する質問

- ・学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか。(小学校)
- ・英語の授業以外にも児童(生徒)が英語に触れる機会(イングリッシュキャンプ、English day、昼休みの英語での放送等)をどの程度設けていますか。(小中学校)
- ・家庭学習の課題(宿題)として、児童(生徒)にPC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の学習をどの程度行わせていますか。(小中学校)
- ・第3学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに次のような指導をどの程度行いましたか。(中学校)
 - 英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点を捉える言語活動
 - 英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点を捉える言語活動
 - 原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動
 - スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動
 - 自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動
 - 聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動
 - 聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動
- ・次のことについて、あなたの学校に当てはまる番号を1つずつ選んでください。(中学校)
 - 英語担当教員とALT(外国語指導助手)との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態について共通認識を持ち、協力して授業を行うこ

とができていると思いますか。

全国学力・学習状況調査の調査問題や結果を踏まえて、言語活動の充実等の授業改善や、定期考査問題やパフォーマンステストの改善等の学習評価の改善に取り組んでいますか。

○ ICTを活用した学習状況に関する質問

・児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用させていますか。

児童（生徒）が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面。
(小中学校)

・児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を以下のような用途でどの程度使用させていますか。

外国人児童（生徒）に対する学習活動等の支援。(小中学校)

児童（生徒）の心身の状況の把握。(小中学校)

児童（生徒）に対するオンラインを活用した相談・支援。(小中学校)

○ 家庭や地域との連携等

・保護者や地域の人との協働による取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか。(小中学校)

・コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか。(小中学校)

○ 家庭学習

・前年度までに、次のような取組を行いましたか。

家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図る。(小中学校)

○ 令和5年3月新規高等学校等卒業者の求人・求職・就職状況

令和5年3月末日現在（山口労働局調べ）

項目		性別	合計	男子	女子	前年同期比
A	求人数(人)	県内	(5,589)			
		ハローワーク 受理数	6,310			12.9%
B	就職 希望者数 (人)	県内就職 希望者数	(2,173)	(1,339)	(834)	▲2.5%
		県外就職 希望者数	(406)	(331)	(75)	▲5.2%
		合計	(2,579)	(1,670)	(909)	▲2.9%
C=A/B 求人倍率(倍)			(2.17)			0.35ポイント
D	就職 内定者数 (人)	県内 就職者数	(2,170)	(1,337)	(833)	▲2.7%
		県外 就職者数	(405)	(330)	(75)	▲4.9%
		合計	(2,575)	(1,667)	(908)	▲3.0%
E=D/B 就職 内定率 (%)		県内就職	(99.9)	(99.9)	(99.9)	▲0.2ポイント
		県外就職	99.7	99.8	99.6	
		合計	(99.8)	(99.8)	(99.9)	0.2ポイント
F	県内・県外 就職内定 比率 (%)	県内就職	(84.3)	(80.2)	(91.7)	0.3ポイント
		県外就職	84.6	80.7	91.8	
		県外就職	(15.7)	(19.8)	(8.3)	▲0.3ポイント
		15.4	19.3	8.2		

(注) 1. ()内は昨年同期の数値である。
2. A欄：求人数は、山口県内のハローワークで受理した求人数である。
3. B欄：就職希望者数は、学校又はハローワークの紹介を希望する者の数である。
4. C欄：求人倍率は、Aの求人数/Bの就職希望者数(合計)である。
5. F欄：県内・県外就職内定比率は、令和5年3月末日現在における就職内定者の合計2,497人に対する県内・県外就職内定者(2,112人、385人)の比率である。

[調査対象]

国公立(全日制・定時制)・特別支援学校・専攻科のある学校で、自己就職者を含まない就職希望者

令和5年度やまぐちの活力を支える高校生就職支援事業の概要

1 県内就職ガイダンス等充実事業

○ **地域産業魅力発見セミナー**

地域に就職した卒業生や山口県にIターン等した若者が、山口県や県内企業の魅力などについて生徒一人ひとりに語りかける座談会等を各学校において実施

対 象：県立高等学校、県立中等教育学校、県立特別支援学校に在籍する高校1・2年生及び保護者

○ **地域産業就職ガイダンス**

就職に向けた意識の醸成を図るためのガイダンス等（オンライン面接への対応含む）を各学校において講師を招いて実施

対 象：公立高等学校、県立中等教育学校、県立特別支援学校、私立高等学校に在籍する高校3年生及び保護者

2 県内就職サポーター等配置事業

○ **就職サポーター [県立高校17人、私立高校4人]**

生徒の希望を踏まえた求人開拓、情報提供、マッチング、個別面談を実施

※ 派遣校制度により、すべての学校等を支援する。

○ **チーフ就職サポーター [3人：県東部、県中部、県西部]**

求人情報等を集約し、各地域での共有化 ※ 就職サポーターの業務含む。

○ **県内就職促進統括マネージャー [1人：県中部]**

県内企業情報の分析、連携機関との窓口一元化、広域マッチング

対 象：公立高等学校、県立中等教育学校、県立特別支援学校、私立高等学校

3 県内企業就職セミナー事業

○ **県内産業魅力探究セミナー**

県内で活躍している起業家や企業の経営者等から、山口県の産業の魅力やこれからの産業界に求められる人材等について聞くことで、県内産業に対する理解を深めるセミナーを実施（やまぐちスマートスクールポータルサイトを通じた動画配信）

対 象：公立高等学校、県立中等教育学校、県立特別支援学校、私立高等学校に在籍する生徒及び保護者

○ **県内企業就職説明会**

高校1・2年生及び就職希望の高校3年生並びに保護者が、企業の採用担当者と直接面談を実施

対 象：公立高等学校、県立中等教育学校、県立特別支援学校、私立高等学校
 開催日：6月12日(月)【下関】、6月14日(水)【山口】、6月16日(金)【岩国】
 6月21日(水)【下松】、10月6日(金)【山口：未内定者に対する説明会】

4 県内企業訪問推進事業

求人開拓、応募前職場見学及び職場定着指導等のため、教員等による企業訪問を実施

対 象：県立高等学校、県立中等教育学校、県立特別支援学校、私立高等学校
 ※ 県立高森みどり中学校は職場定着指導のみ可

5 県内就職促進協議会

教員等と企業の採用担当者が、教育内容や業務内容等についての情報交換を実施

対 象：公立高等学校、県立中等教育学校、県立特別支援学校、私立高等学校	
開催予定日・会場：	
I 期	岩国・柳井地区 5月30日(火)シンフォニア岩国
	周南地区 5月19日(金)ほしらんどくだまつ
	山口・防府地区 5月11日(木)県庁職員ホール
	宇部・山陽小野田地区 5月23日(火)宇部市文化会館
	下関地区 5月25日(木)海峡メッセ下関
II 期	萩・長門地区 5月17日(水)萩市民館
	県東部 6月2日(金)
	県中部 5月31日(水)
	県西部 6月8日(木)
※ II期：オンライン形式により実施し、I期で参加できなかった企業が参加	
※ 公務員説明会 . . . 6月6日(火) 県庁共用第2会議室	

厚狭高校と田部高校の再編統合により設置する新高校について（案）

1 新高校のコンセプト

学科の枠を越えて、地域・社会と連携・協働した課題解決型学習や生活の質の向上に向けた実践的・体験的な教育活動を推進することにより、未来を切り拓き、新たな価値を創造する力を育む学校

2 新高校の概要

(1) 学科の構成・学級数

新 高 校	設置学科	学級数	← 令和7年度	設置校	設置学科	学級数
	普通科	2学級		厚狭高校	普通科	2学級
	家庭に関する学科 <small>※ 名称については今後検討</small>	2学級		厚狭高校	総合家庭科	1学級
				田部高校	普通科	1学級
					総合生活科	1学級

[設置場所：厚狭高校北校舎]

※ 新高校への移行

	令和6年度			令和7年度			令和8年度			令和9年度		
厚狭高校	1年	2年	3年		2年	3年			3年			
新高校				1年			1年	2年		1年	2年	3年
田部高校	1年	2年	3年		2年	3年			3年			

(2) 3年間の学び

- 1年時は、学科ごとに共通の教科・科目を学習
- 2年時から、進路希望や興味・関心に応じて選択した教科・科目を学習

学科	1年	2・3年
普通科	普通科における共通の教科・科目による学び	探究的に物事を考え、新たな価値を生み出し、将来を見据えて自らのキャリアがデザインできる人材を育成する選択科目による学び
家庭に関する学科	家庭に関する学科における共通の教科・科目による学び	家庭に関する専門性を身に付け、他者と協働して地域・社会の生活の質の向上と社会の発展を担う人材を育成する選択科目による学び

(3) 今後の取組

- 両校の教職員で組織する開校準備委員会を設置し、具体的な教育内容等を検討
- 学校関係者等で組織する校名等検討委員会を設置し、校名等について検討